

けんこうしんだん じゆしん こえ げんき い
健康診断と受診の声かけは、元気に生きていくため。

こうれいしゃ こえ いのち あんぜん まも
高齢者への声かけは、命と安全を守るため。

のじゆく ぬ だ
野宿から抜け出すきっかけをつくろう。

さくねんど こんねんど おおさかふさいせいかい とくそろう いっせいけんこうしんだん
昨年度、今年度と、大阪府済生会による特掃での一斉健康診断をおこなってきた。24年
度も9月におこなう予定にしている。2回の健康診断をきっかけにして、百人以上が新し
く治療につながる事ができ、二十人以上が生活保護などを活用して野宿やシェルターか
らぬけだすことができた。ただ、治療を継続するためにはどうしたらいいのか。

とくそろう 2ねんかん つき つかい しゅうろう
特掃は、この2年間は月に5〜6回、月8だと8回就労することができた。けれどそれだ
けで野宿やシェルターの生活からぬけだすことはできない。「からだは動くうちはお上の
世話になりたくない。はたらきたい」という気持ちで、路上やテントやシェルターで寝泊まり
しながらも、特掃で働きつづけている人も多いと思う。生活保護で畳の上を取るか、特掃
で野宿やシェルターを取るかは、不合理な選択だと思ふ人も多いだろう。ほんとうは、特掃
のような仕事で働きながら、その収入で畳の上で安定して暮らしたいというのが、特掃
に来ている多くの人の願いだと思ふ。

げんじつ とくそろう しゅうにゅう
だが現実には、特掃の収入でギリギリ百円弁当やカップラーメンなどで食いつなぎなが
ら野宿やシェルターで暮らしていると、からだのことに気をくばる余裕などない。だから知
らず知らずのうちに体がガタガタになっていることが多い。

じっさい けつあつ うえ した ひと なんにん かんぞう すうち しん
実際に血圧が「上200・下140」をこえている人も何人もいた。肝臓の数値が信じられ
ないほど高い人もたくさんいた。特掃はただ仕事を提供するだけのものではない。元気に

働いてもらうための事業である。だからこそ、健康診断を通して体の異常に気づいたら、治療をするためのサポートをする。治療をすることで働ける状態に戻る人には「病気を治してから、また。」とだけ無責任に言うのではなく、実際に治療につながるように、特掃に来てもらう。今日は病院に行くことが仕事ですよ」と、「治療も就労のうち」という対応をずっとしている。だが、健康を取りもどすためには、死なないようにするためには、どうしても安定した収入と豊の上の生活が必要な人もいる。そうした人には、特掃を卒業して生活保護にうつることを勧めている。「不合理な選択」だと思う人がいることでも、命をつないでいくためには必要な場合がある。

どこかの無責任な団体が、無責任に非難するのは自由だが、それは特掃で働く労働者のことをきちんと考えていないからだ。健診結果のNPOへの通知は、個々の輪番者の同意をもらってあるし、そもそも安全に働いてもらえるようにする責任が、雇用主としてNPOにはある。

70歳をこえた人たちに対する声かけも同じだ。特に野宿やシェルターで生活している人には、「命と安全」のために「豊の上に移行してください」と、何回も何回も話をつづけている。特掃は最初から「たんなる高齢者対策」ではない。野宿に追いやられる釜ヶ崎の高齢労働者が、みずからの命と生活を守るための手段の一つだということを忘れずに、特掃事業を運営していきたい。

くすり の だいぜんはん だんせい はんてい じゅしんさいかい
 一薬をちゃんと飲んでる—<70代前半 男性 C判定 受診再開>

きよねん けんしん ことし けんしん けっか はんてい けつあつ たか きよねん
 去年の健診も今年の健診も結果はC判定。いずれも血圧が高い。去年は(220/110mmhg)、

ことし きよねん すみしょうかいびょういん い こうけつあつがいらい じゅしん
 今年(160/112mmhg)だった。去年は済生会病院まで行って、高血圧外来を受診する

ちゅうだん くすり の けつあつ たか まいとしこえ
 も、すぐ中断してしまった。「薬を飲まなかったらすぐ血圧は高くなるなあ。毎年か

わる ことし しゃかいりょう い らいねん けんしん う
 けられるのもかっこ悪いから、今年(160/112mmhg)は社会医療センターにきっちり行って、来年も健診受

はなし さいきん とくそうしゅうろう じ いがい けつあつ そくてい つぎ じゅしん
 けるわあ」と話をする。最近では、特掃就労時以外にも血圧を測定、次は×月×日受診

び こえ ねんきん とくそう しゅうにゆう せいかつ
 日と声をかけてくれる。年金と特掃の収入でアパート生活をしている。